

2008年6月発行
NO.18

千代田まちづくり サポート

通信

編集・発行 (財) まちみらい千代田企画総務グループ

東京都千代田区神田錦町3-21 ちよだプラットフォームスクウェア4階
〒101-0054 TEL.03-3233-7556 FAX.03-3233-7557

財団ホームページ <http://www.chiyoda-days.jp/>

E-mail info@mm-chiyoda.or.jp

平成19年度の活動成果発表会を開催 助成団体17グループが発表(2008年3月9日)



平成20年3月9日(日)、ちよだプラットフォームスクウェアにおきまして、平成19年度の活動を締めくくる「平成19年度活動成果発表会」が開催されました。当日は、今年度助成を受けた17グループ(1グループは事情により欠席)が参加し、1年間にわたるまちづくり活動の内容とその成果について発表を行いました。今年度は、初めて助成を受けたグループが11グループにのぼり、これまでとは違う新たな視点での活動が増えてきました。内容では、「食」や「水辺」など、従来のまちづくりから一歩踏み出した領域での活動が行われ、千代田区が持つ歴史や文化などの特徴を活かすまちづくりが増えてきたように思えます。一方、審査段階においては、その新しい活動内容に不安を感じさせられる部分もありました。しかし、今回の発表会では、各グループがその不安を払拭するほどの成果を上げており、「まちづくりとは何か?」を改めて考え直させられました。

千代田まちづくりサポートは平成20年度に10年目を迎えます。これまでの様々な活動に加え、世代や立場を超えた新しいまちづくりの流れが生まれてきています。今後も、「千代田区らしさ」を活かした活動が発展していくことに期待しています。

今回欠席した「千代田文化会」グループにつきましては、次回発表予定です。

【審査委員=敬称略】

- 会長 鈴木伸治
(横浜市立大学国際総合学部准教授・工学博士)
- 副会長 早田 宰
(早稲田大学社会科学総合学術院教授・工学博士)
- 委員 山本 坦
(NPO 法人東京セントラルパーク理事)
- 金城敦彦
(NPO 法人大丸有エリアマネジメント協会事務局長)
- 田熊清徳
(神田芸芸祭実行委員長)
- 服部素子
(社団法人日本フィランソロビー協会)
- 渡辺ひとみ
(千代田区政策経営部 政策推進担当部長)

目次

【一般部門】 [3回目]

- フレンドシップちよだ 2
 - 武蔵野美術大学
コミュニケーションデザインチーム 2
 - CAPPs 2
 - 魁! 神田塾 3
 - カンダユメラボ 3
- ### [2回目]
- 神保町応援隊 4
- ### [1回目]
- helpus! 4
 - まちづくりワン 4
 - スローフード・セントラルイースト東京 5
 - 食育。街行く研究会 5
 - 神田フェーダー・ニュートラル 6
 - C-bridge 6
 - SOTOBORI CANAL WONDER 6
 - 日本橋川・神田川に清流をよみがえらせる会 7
 - NPO 法人地図文化研究会 7

【トライアル部門】

- サロン foryou 8
- NPO 法人ちきゅう市民クラブ 8

【総評・審査委員講評】

9

【まちみらい千代田 賛助会員のご紹介】 12

◆一般部門 3 回目

1 地域に根ざした国際交流 フレンドシップちよだ 【3回目】

地域に根ざした国際交流を目指して活動してきた。今年度のイベントは、大体月に一度開催。特に、2月の餅つき大会は一番町児童館で、九段のお菓子屋さんと法政大学相撲部、地域のみなさんのご協力で実現した。去年をはるかに上回る約130名の参加者があった。

もう一つの活動であるサタデー・スクールは、毎年12回行っているが、今年は学校の都合もあって、11回実施した。

会計報告としては、助成金でほぼ活動資金が賄えた。イベントや活動の告知も行うことができ、感謝している。今後も、イベントとサタデー・スクールの2本柱でやっていく。

助成終了後の今後の資金運営は、2008年度よりスタッフの会費を導入する。年間一人千円くらいだ。また、外国人ゲストの希望者には和服を着た時の写真などを500円で販売。新たな助成金も模索、検討している。

3年間の目標であったホームページの改定もかなりバージョンアップし、使いやすいと好評だ。イベントの参加費も見直していく。読売新聞と千代田区報で会を取り上げていただいた。

Q) 公共スペースでの餅つき、さらに千代田に踏み込んでほしい。日仏友好150周年なので、それにスポットを当てるなどしては？

A) 仏語の学校もあるので、ぜひ検討し



たい。

Q) 他の団体とのコラボをしてみようか？できないのはなぜか？

A) 共通のテーマもあるし、できればそうしたいと痛感した。

Q) 上智大学の留学生にサタデー・スクールの講師をしてもらったことなどもっと紹介していけば、学生にも広がるのではないかと？

2 神保町を伝えるコミュニケーションデザイン 武蔵野美術大学コミュニケーションデザインチーム 【3回目】

神保町に在勤、在住、在学、そして訪れた人々はどんなことを感じ、何を考えているのか、それを知ることからスタート。企画名は「神田日和」、人々の声を一冊の本にするプロジェクト。まず「あなたの宝物は？」と「あなたにとって神田とは？」という2つの質問について、書店や喫茶店、計19か所に設置した投書箱に回答をもらった。それを回収して本にまとめる。

設置したのがチラシやポストなどアイテム制作の7月から2か月余り。回収して本の制作にかかったのは12月で、ブックフェスティバルには間に合わず、直接販売はできなかったが8冊ほど注文を受けた。中間発表のときと合わせて、計31冊の注文を受けた。協力店にお礼として贈呈する15冊と自分たちの分とのを合わせて54冊制

作した。

最初に自分たちがイメージした本ができたと思うが、予定通りにはいかなかった。本の内容や構成の問題点にも気づいたり、助言も受けた。編集前の話し合いが不十分だったなどの反省点も多い。

今後の展開としては助成金が終わるのだが、後輩には制作した本を見せ、活動を紹介する機会もあるので、継続することを伝えたい。

Q) 改めて本を見て、写真がコメントにもあった。メンバー自身の感想を知りたいので、座談会などあるとよかった。

Q) 3年で終わるのはもったいない。来年もまた別の切り口、アイデアでぜひやってほしい。

A) また、別の名前とかでやれるかも。



(会場から、拍手と笑い)

Q) サポート活動としては規格外だった。同じ団体名で違うメンバーがやるというのは、冷静に考えるとおかしい。毎年おもしろいアイデアを出すので選ばれてきた。

残念なのは、その成果を活かすのが下手で、活動の波及効果が少ないこと。1年目のクレヨンも商品になると思ったが眠ってしまった。去年の本も、この本も活かしてほしい。来年は神保町応援隊と協働してはどうか。

3 千代田区公園アダプト制度を区民の立場からサポートし、 広めることを目的とする CAPPS 【3回目】

とうとう3年目。特徴の1つはチューリップの球根の寄付が広がってきた。番町小学校から麹町小学校、お茶の水幼稚園、白百合学園中学・高等学校へ各100個。地元の公園にも300個、400個と寄付された。

また「さくらサポーター通信」の第6号、7号を編集発行。今年は特集「江戸城花巡り」とする。まとめとしては、常盤橋公園の再生を目的に千代田区の

アダプト制度を支えることから始めたが、去年、「常盤橋フォーラム」を立ち上げた。常盤橋を挟んで隣接する千代田区と大手町地区、中央区日本橋地区のまちづくり団体が、常盤橋公園の活性化と、東京駅周辺から日本橋地区への回遊性を高める連携を考えながらイベントなどを行うことを目的とする。

両区の街づくり団体が連携し、一つの地域の活性化を始めるのは初めてで

はないか。常盤橋フォーラムでは4月4、5日にイベントを予定。常盤橋の上から名橋日本橋保存会の協賛で「日本橋川の再生活動」をやる。EM菌団子の投入も行う。5日はELボートとバスで「日本橋舟遊びと丸の内・日本橋名建築巡り」のツアーを予定。ケータリングも準備し、参加者にEM菌団子の投入もしてもらい、浄化活動をPR。今後もこれまでの活動を続ける。

活動資金としては、ポイント会社の余ったポイントを頂くなど考えている。

Q) 常盤橋は注目を集めているのに汚い。橋も整備されずもったいない資産、観光資源。区の管轄か？

A) 区と歴史民俗資料館、文化庁とが関わっている。修理も石垣を当時の石を使うと莫大な資金がかかるのでできないと言われた。

橋は最近ようやく文化財として

指定されだしたが、軽く見られている。資金がないから、壊すという結論が5年前には出された。

Q) C-bridgeと連携してやってはどうか。大切なことなので。

Q) 他の区との連携ができたことはすばらしい。企業も巻き込んで、歴史の再確認と再利用ができればうれしいし、評価できる。

A) 区間の垣根を外し、困難な問題

の解決を根気よくやりたい。



4 神田っ子の育成 魁! 神田塾 【3回目】

神田の文化や伝統を体験し、現代の子どもたちの環境をよくし、新旧の住民の垣根をとり、神田のまちを発展させようと3年前に立ち上げた。今年度の活動実績として、中間発表会以降のものでは、11月の親子料理体験について詳しい内容をお伝えする。

「食育。街行く研究会」と親子で手作り餃子に挑戦。大勝軒さんでその良さを体験した。また、茨城県坂東市内散策親子ツアーを行い、自然ハイキング、歴史文化遺産めぐりの散策。農作業体験としてはレタスやネギの収穫をした。

12月には、クリスマス会を開き、絵本づくりを実施。ケーキづくり、神

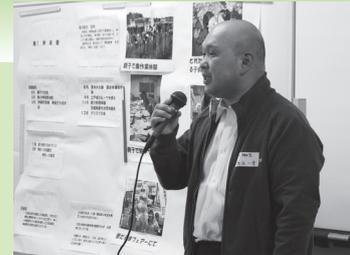
田駅周辺の散策などもした。1月には、神田雪だるまフェアーに参加。絵本は子どもたちが体験したことに基づいてまとめた。

各分野に分け、絵にしたものを閉じた。予算の都合で、巨大化絵本にはしなかった。

Q) 「神田っ子宣言」を発表しないのはもったいない。小学校高学年の子どもたちの参加が課題とのこと。活動の拠点を作り、リーダーシップをとって頑張って活動を広げてほしい。

Q) 子ども時代の体験は、大人になってから再体験するので重要だ。

継続のための未来へのビジョンは



あるのか？

A) 小学校や町会からの援助をいただける形ができたので、それをベースに今後も活動する。

Q) 神田絵本を綴じしないで、出張所の壁などに展示できないか？

A) 小学校や出張所に配布して、自由に見られるようなシステムを作っていきたい。

5 「創る・伝える・広がる」 カンダユメラボ 【3回目】

3年間の集大成として、3月29・30日に神田駅西口商店街にて「夢祭08」を開催。過去の夢祭と大きく違う点は、ヘルパス、でんでんむしなどの団体と協働で開催したこと。また建築のテーマよりも人との交流をもっと図ることを主体にした。

神田駅西口商店街に路地裏空間を表現し、地元の人やオフィスワーカー、外部の人とも交流を図った。神田の町を知ってもらおうと考えて、具体的には商店街に縁台を用意して、オヤジ文化の独楽、将棋、メンコなどを並べて、お酒を飲んだりして楽しんでもらう。オヤジバンドにも出演していただきたいと考えている。

この活動は3年で終わるのではなく、永遠に継続していきたい。具体的

には明治大学の学生なので、明治大学に資金協力を申請。また神田東口から西口へと広げた活動を、さらにエリアを広げ、協賛企業を探しながら拡大していく。

最後に、協賛企業の紹介をぜひよくお願いしたい。学生の活動がしやすくなると思う。

Q) 夢祭を主催できたのはすばらしい。次回につながる活動なので応援したい。ただし「路地裏」とは何か、路地裏文化の検証を。

Q) 商店街での地元の要望と学生の希望が一致したことはすばらしい。ぜひ協賛先の企業などの情報をお願いということか？

A) 直接、協賛先を紹介してくださる



のありがたいが、その可能性のある企業などのリストを出していただければと思う。

Q) そうしたアフターケアをしていければ、「まちみらい千代田」などで実現可能だと思う。そのためにも来年以降もサポートの発表会などで参加を続ける必要がある。

Q) メンバーが変わるといのはどんな団体にもいえること。学生だから継続できないのではなく、ここまでやってきたからこそ、学生でも継続できる、と期待したい。

◆一般部門 2 回目

6 よそ者と若者、住民と商店街、知恵と力を合わせ 神保町を元気ある街に 神保町応援隊 【2回目】

この1年、いろんなイベントや団体を応援した。3月には、区のさくら祭り
で神保町をガイド。御茶ノ水小学校の「Jエリアフェス」でゴミ分別と子どもお遊びコーナーの運営。「カンダカメラボ」とのコラボで旧今川小学校で授業。4月にフリーペーパー「おさんぼ神保町」第3号、2万部発行。明治大学で新入生に「学生と街との関わり方」をメンバー10人程で講義する。

5月、「神保町3丁目マップ」5000部発行。第21回すすらん祭りのお手伝い。7月、湘南中学校の授業「神保町について」を調べるために、生徒7人が訪問してきたので案内する。また、フランス語学校ラパンとのコラボで「神保町カルチャータン」の復活と

して、すすらん通りで「パリ祭シャンソンのタベ」を開催。

8月、神保町「本と街の案内所」開設準備を応援して、10月にオープンする。その間9月に「ブックフェス実行委員会」を応援し、10月第17回「ブックフェスティバル」。10月に「おさんぼ神保町」第4号4万部発行する。1月は「雪だるまフェア」が旧小川小学校跡地で開かれ、「FMちよだ」の生放送機材でインタビューする。案内所では、仲間で「ネットカフェ」を開く。

2月には、第2回東京マラソンを靖国通り商店街の人と専修大学交差点で応援する。ラジオもよろしく。

Q) ホームページが見やすいし、活動がよく分かる。



Q) 楽しそうに活動している。誰でも参加しやすい500円玉会費などの工夫がみられる。その仕組みを他の団体に広げてほしい。

Q) 活動は広がっているが会員の数が増えていない。活動が他人事にならないように、自分のこととして関わってほしい。

A) 参加者の数は多く、1年中会員募集はしている。

◆一般部門 1 回目

7 「神保町と学生」互いの向上を目指す helpus! (ヘルパス) 【1回目】

約1年間の活動で、神保町ガイドツアー、神田駿河台地域まちづくり協議会、お茶の水アートピクニックの3つに参加。特にアートピクニックのイベントについて振り返る。このイベントはこれまで茗溪通り商店街と日本大学の学生のみで行われていた。今回は私たちが「ヘルパス」として加わり「お茶の水アートキャンパス構想推進会議」を立ち上げた。

特徴は商店会と学生の一元化を目指したこと。まず、家具づくりの好きな学生グループにベンチなどを造ってもらい、イベント当日だけでなくその後も、商店街のビルの公開空地に展示。商店会と学校では、学校の文化祭と茗溪通りのイベントを合せてくれ、連動した作品や催し物を出展する。

学生団体同士の協働や勉強にもなり、新たな連携の形ができた。だが予

算が助成金だけなので、今後の活動には周りの地域とのより充実した組織体系が必要となる。来年度も、ヘルパス、カンダカメラボ、でんでんむし、が中心に企画運営を担う。学生同士の交流の場、ネットワーク、情報の共有など地域との連携の組織を大きなまちづくりとして構築した。

今後の活動は、カンダカメラボ夢祭08の共催、神保町すすらん祭りに参加、さらに周辺地域も巻き込んでいきたい。

Q) やる気が花開いた。企画立案、ネットワークのよさがすばらしい。自分たちらしさ、特色、そして発信が今後の課題か？

A) 来年度は地域の範囲も広げ、新たな方向性を考えていきたい。

Q) 堂々と胸を張って活動を。あちこちであまり重宝がられないように。



特色を出すことで、方向を変えていってはどうか。

Q) 学生は卒業があるのでメンバーが変わる。どう継続するのか？

A) それが学生の悩み。地域の人やみんなで解決策を図っていく。まだ答えは出ていないが、なんとかクリアーしたい。

Q) 後輩たちへの引き継ぎなどは具体的にどうするのか？ノウハウや体験談を引き継ぎ文書にしてあるといいのではないか。

A) 今後考えてみたい。

8 犬と一緒にまちづくり まちづくりワン 【1回目】

毎月の清掃活動は町会から掃除用具の貸し出しを受け、定着した。ワッペンを付けて散歩のときにワンワンパトロールも続けている。新しい会員の方

が自転車でもやってくれている。ドックランを野村不動産の新しいマンション、ショールームの脇に造った。そこでの会員も生まれたが、マンションの

完売で閉鎖。アイガーデンにも芝生にロープが張られて入れなくなった。

中間発表会で、清掃のみならずマナーの向上などのための講演会を開く

と言ったが、藤村かおりさんの「話しましょうペットのこと」と題した講演会を開いた。初めて飼うときの注意、病院の選択、悩みなどの質問も出て、新しい参加者も増えた。

何よりも、地域でのコミュニケーションが生まれたことを大事にしたい。散歩の途中で毎朝出会った女性から、事務所の移転につれて、お別れの手紙をいただき、お返事を書いたりもした。

Q) トライアルから一般の1年目を活動されて、一番の違いは何か？

A) この活動は進化していくというより、継続が大事で、その中で課題を見つけていく。高齢者へのセラ

ピー・ドックのサービスなどで施設を訪問することなどは、徐々に探ってやっていきたい。

Q) 犬の愛好家の集まりだけの活動ではないので、高齢者や子どもたちとの交流や働きかけをさらに期待している。

Q) おもしろいアイデアだと思うが、活動の広がりはどうか？

A) 今のところ、神保町などへ少しづつ広がっている。万世橋にも、ワンワン・パトロールをしている人たちはいるので、区内でばらばらの活動の一つにつなげていければいいと思う。

Q) マンションの住民への勧誘は難しいか？また、ウェブや冊子などでのPR活動をまとめて示すと新会員も増えるのでは？

A) マンションにもチラシなどは配っているが、「FM神保町」に期待している。よろしく願いたい。



9 食文化の交流地・神田を実現する スローフード・セントラルイースト東京【1回目】

「食イベント」を通してスローフードの考え方を普及しつつ、神田エリアの活性化を体験から知ってもらうことが狙い。イタリアに本部のある当協会は、全国に支部があるので、ネットワークを活かして神田と地方の連携を図り、神田を食文化のハブ基地に。3回行ったワークショップは地方自治体との連携を生む。地域活性化イベントの「親父バンド」に企画や出店で協力、これも神田エリア活性化の一助となる。

ワークショップは、①「岩手のキノコ・噂のせんべい汁」では、キノコ業者を講師にキノコの栽培法や珍しいキノコの紹介をした。②「神の魚ハタハタ」で男鹿半島からきたハタハタ博士に漁やしょっつる（鍋）の話聞く。③「冬

の名物どんどん火焼きを神田で体感」は三重県の牡蠣をおいしく学ぶイベントで、300人が集まった。

Q) 食の安全が問題になっているだけに、ぜひ活動を広めてほしい。

A) 生産者の顔が見える産物が会の目玉。安全な食材を安く提供。

Q) 助成金の収支について、領収証は不要ではというが、明細のあるものには領収書をつけてほしい。

A) 使途が明確なものでも、今後は忘れられないよう気をつける。

Q) 産地の良い産物を紹介する手助けなので、費用を協力してもらうようコーディネートすると、資金も有効に使えるのでは。

A) 牡蠣の件は去年は問題が起きたの



で、向こうから無料で提供されたが、今年は20人分の交通費など支払った。今後は検討する。

Q) 産地と商店とのつながりができると、産地と消費者だけでない広がりができる。食材は地方と神田独自のものを考えてはどうか？

A) 生産者も望んでいるので、来年は神田の商店に直接牡蠣をおろすことなどもやって広げていきたい。

10 食でつなげる街の活性化 食育。街行く研究会【1回目】

食育ネットワークの設立として、区のホームページで食育講座の情報発信を始めた。また観光としての千代田の食のあり方を飲食店と共に展開。①神田技芸祭での地域の食文化のPRに、神田の蕎麦屋が集まり、すべての店のお蕎麦が1か所で食べられるというイベントを実施、300人が参加した。4月には、神田のカレーをテーマに計画している。「カレー店」は組合もないので、紹介する店の選定など議論している。②食の祭典として、地域を超えたお店のPRが食の観光客の勧誘招へいになる。食の祭典マップは2万部印刷し完売する。マップを手食べ歩いてもらうことにより、地域の再発見や歴

史、文化にふれる体験をしてもらうことになる。③食の出前講座として、お店の方に借り切ったそのお店で話を聞く。食大学オープン・カレッジとして、食に関しての歴史や伝統、地域の食文化などに触れてもらう。

行政のイベントとは別の活動をしてきた。来年も食に対する信頼を取り戻すためにも、老舗とは何か？安全とは？などと考えながら、まちづくりに貢献する。

Q) 食育大学の対象は子どもも入るのか？

A) 子どもの参加もOKだという店では、子どももいっしょに、来るものは拒まずの精神でやっている。



Q) 幅広い活動だ。生産者とつながっている「スローフード」の団体と連携してはどうか？また行政と民間の連携についての知恵は？

A) 平日が仕事の行政と民間の仕事の時間帯が異なるなどの問題があり連絡は難しいが、お店と行政の板挟みになり易いのを、互いの特色を活かし、なんとか民の力で解決していきたい。

11 輝けおっちゃんの街・音楽を通じた特色ある街づくりプロジェクト 神田フェダー・ニュートラル 【1回目】

明治大学商学部学生と町会、商店会の有志で活動している。音楽を軸に、街と人々をつなぎながら特色ある街づくりに貢献したい。音楽では「ロジヨコライブ」29回。出演バンド114組、観客者2240人。出演料はもらえなかったし、演奏者と地域の方との距離がまだ遠い。それが課題。

フリー・ペーパー「カンダフル」第5号発行。内容は不十分だった。広告費はとれず、地域の情報誌を目指したが、あまり地域を伝えていなかった。

神田技芸祭りではタイアップしてワークショップを開く。インターネットでは「ロジヨコ.jp」を開設。地域の情報発信メディアとして役立てていく。まだコンテンツはできていない。これから、ウェブを更新して頑張りたい。

内幸町音楽祭の公募事業では、選考5団体に選ばれ、「街と人と音楽と」を実施準備する。

- Q) ロジヨコ内幸町でのライブの様子は？
- A) 結果は、雨にも拘わらず大成功。旧今川中学校を中心に活動しているが、今後はもっと広い範囲で活動していきたい。
- Q) ポイントはロジヨコライブなので、地元や区の許可をもらうわけだが、道路での活動をも広げようという動きがあるようだ。
- Q) マスコミへの売り込みは？新聞社に送るとか。まちみらい千代田にもアピールしては？地元とコラボすることを考えてほしい。どれだけ、おっちゃんが輝けるように



なったのか？

- A) 神田夏フェスでは、スローフードさんと協働したイベントで、牡蠣を食べたいというおっちゃんたちが多数参加。オヤジバンドでは、オーディションもやるが、演奏会では8割、9割はおっちゃんとその家族たちだった。
- Q) 助成金のみでの運営でなく、自分たちでも収益を考えて。コンテンツの中身をもっとアピールして。プレゼンも工夫を。

12 橋を視点として考える千代田の観光まちづくり C-bridge 【1回目】

千代田区に多数現存している関東大震災後の復興橋梁を老朽化が進む物を保存・保全して、街づくりに生かす活動。船による「隅田川の右岸と左岸をめぐるランドツアー」を2回実施。勝鬃橋をあげる会と共催する。千代田区の25の橋を見学。参加者は合計80人。

次に「第1回千代田ブリッジクリーニングツアー」を実施。CAPPSと共催で、午前中は橋の現地見学、午後は常盤橋を中心に周辺の清掃をした。また伊東孝先生と歩く神田川ブリッジウォークを開催。後楽橋から神田川沿いに歩いて伊東先生の解説を聞きながら3時間で7本の橋とその周辺を見学した。参加者は約20人。

ツアーはすべての人に満足いただけよう。違った視点で橋を見ることができたという意見や、今後も続けて

ほしいという声も。清掃活動では多くのゴミが散乱しており、まだまだ清掃が必要だ。

ブリッジウォークは橋や街並みの魅力を再発見してもらえた課題も見えたが、改善して文化的遺産保全・保存の活動をしていきたい。

- Q) 橋にまつわる歴史と物語がある。近隣の町会が各自にやると理想。ぜひ、継続して行ってほしい。
- Q) 橋の魅力をパンフレットなどにして広く伝えてはどうか。また、区のアダプト制度にも清掃はあるので活用して、観光資源であれば、企業も掃除の手伝いをできると思う。
- Q) 橋を視点にまちづくりを見た感想などあれば聴かせてほしい。
- A) まちづくりに活かすには、これか



らの活動になる。今年は関心を持ってもらうことで精一杯だった。

- Q) 2年目、3年目の目標はあるか？ビジョンや夢は？
- A) 神田川の25本の橋、その全体の認識、関心を盛り上げていければと思うが、目標は橋の保全・保存。市民の主体的活動を目指す。
- Q) 橋が歴史的建造物として認識されてきた。これだけ橋の多い区はないので、区の観光協会にも積極的に働きかけをお願いする。

13 千代田区の歴史遺産・外濠を伝えたい SOTOBORI CANAL WONDER 【1回目】

近代化によって失ってしまった外濠を文化遺産として見直し、活かすことで賑わいを取り戻し、区の観光スポットとしても活用することを目指す。素晴らしい水面だけでなく土手も活かして、東京オリンピックのボート競技もここでできないかと考えている。

Eボートでのクルージングで水の環

境に関するワークショップを開催。また「外濠の歴史」「外濠での活動」2冊の小冊子も創り、学習と活動の普及に役立てる。いろんな団体ともコラボレーションして水上でのジャズダンスや、外濠の水質調査を浄化活動のために実施。

課題は運営資金が助成金しかないこ



と。資金を確保し、メンバーを増やせるか。学生として今後どう信頼を得て

社会的立場を確立するか。来年度は引き続きワークショップやクルージングを実施して解決していく。協賛金も募りイベントを町の方々と開き、外濠好きを増やしていきたい。

Q) 外濠の魅力をどう伝えるのか？ボートに乗って初めて分かることは何か？ストレートに表現してほしい。

A) クルージングでのレクチャーを通して、水辺だけでなく残っている石垣などの魅力もアピールして

いく。今も残る外濠には計り知れない魅力がある。参加者も知らなかったことが多かった。

Q) 参加者の一人として感じたのは、江戸の骨格構造が外濠にはあることと、意外に水質もきれいなこと。資金が助成金だけで他にはないのか？JRにも資金協力を依頼してはどうだろうか？

A) 街づくり財団とリバーフロント財団への助成金を申請する予定。来

年は、JRにもアピールしたい。

Q) 学生だけのメンバーでなく地域の人たちにも参加を呼びかけて。

A) 来年からは卒業後も関わり、地域のメンバーとして活動していきたい。最終的には土着的グループになることが目標だ。

Q) 外濠の生態系がわかるとうれしい。ぜひ、調べてほしい。

A) 釣りはやってみたいと思うが、許可ができるかどうか。

14 日本橋川・神田川に清流をよみがえらせる 日本橋川・神田川に清流をよみがえらせる会【1回目】

1年間、EM菌の川への投与をしてきた。現状は、雨が降らない限り見た目はきれい。ボートに乗っていただいた方の感想でも、思ったより川の水がきれいだという。雨が降ると濁るのは、下水道水が大雨で年間30回ほど流れ込むため。水質基準はこの10年でDからCに上がったが、CからBに上げるのは大変なことである。

水質浄化の方向性をまとめたが、勉強していく中で同様に活動している団体は多いが、提言された問題で、下水や外濠の水も神田川、日本橋川にも流入するのをどうにかできないか研究する。川に空気を入れて水質を浄化したり、川底を浚せつして川の流れを速く

する。堰を設けたり、地下水を導入して水量を増やし、植物を植えて浄化する。最後に微生物のEM菌を投入する。

Q) 費用の収支のバランスが悪いが、資金的に自立の道は？

A) 前の年は寄付金があり、何とかしたが、次の年度は企業の助成も考え、他の団体C-bridgeなどもぜひ協力をして橋の上からEM菌団子の投入をしたい。

Q) 活動で、春休みの子どもの関わりはできたのか？

A) ボートの故障などもあり、力不足でできなかった。今後の課題。

Q) 地域の人が身を持って実感できる活動をしてほしい。PRも不足。



出張所にもアプローチして、楽しくできる企画を。

A) 水温の上がる5月までに地元にも働きかけ、きれいにした橋からのEM菌団子の投入を子どもたちとも行いたい。

Q) 楽しい企画なら町会も動くと思うので、EM菌団子を買ってもらってもいいのではないかな。今後の活動を期待する。

15 地図を活用した魅力ある“まち”千代田の実現 NPO法人 地図文化研究会【1回目】

まちづくりに参加したくても、何をしたいのかわからない人たちにも地図を通して活動してもらおう。まち興しニーズを明らかにして、実際に地図の形で表現していく。まず千代田区に関する情報地図を収集し、分析・整理した。その情報を学習会、ワークショップを通じて提供し、まちづくりに関する新しい提案をしてきた。

結果として、自転車を通してまち興しをしたいというニーズを吸い上げて、自転車マップを作成。ベーシックな地図を示して、みなさんで試作図を作り、その地図をもとに参加者が自転車で千代田区を回り、そのモニタリングにより、実際に地図を創り上げた。参加した子どもたちの意見も反映させていっ

た。今後、さらにステップアップさせて、活動を継続したい。

Q) コンセプトとしてより広い活動を考えているというが、具体的には何か？どんな方向性を目指しているのか？

A) 地図によって情報の整理を行った段階。自転車を使ったまちづくりをするには、社会基盤としての自転車の走る環境を整えなければならない。行政にも協力を求め、一般市民の声も集めていく。

自転車マップも完成ではなく、歴史や文化、アミューズメントなどの情報も盛り込んでいく。あまり取り込んで閻鍋みたいになっても困るので、検討しながら異なる



コンセプトでも取り組む。

Q) 成果物としての地図をどのように活かしていくのか？

A) もし需要があれば、行政とも相談して、広く一般に提供したい。

Q) 道路交通法が変わるので、自転車の乗り方のマナー教室なども開いてはどうか？

A) 最低限のルールはマップに乗せたが、改良を加えていく。

◆ トライアル部門

16 明日を生きる高齢者の力・・・知育・体育・食育【青春よいつまでも】 サロン foryou 【トライアル部門】

シニアを対象に、生きるための知と体の力を作る講座を開き、居場所づくりをしたいと考えた。10回の講座を開催し、12月にはもう一回開いた。中間発表会で説明したが、皇居めぐりがとても人気があった。食事をセットで計画するとよいことも分かった。

歴史の先生と連携して、地域のふつうの案内板ではなく、過去と未来と現在を錯綜させたような歴史マップなどを創ることも、活動の発展として考えている。今後は講座の内容も歴史散策を中心にしていきたい。社会にあふれている「おばあさんの力」だけでなく、「おじいさんの力」も発揮していきたいので、よろしく。

助成金の他に講座の受講料として全体で20万円ほどの収入があった。支出としては講師料、会場費、印刷、通信費など合わせて約30万円ほどかかった。私自身、千葉に転勤になったが、今後のことをどうするか、なんとか継続の道を考えていきたい。

Q) 楽しい人柄の代表者の魅力は素晴らしいが、「保佑ファンクラブ」にならないよう、来年度も千代田とどうつなげるか、テーマを絞って活動を深めていってほしい。

Q) 千代田区民の参加をどう呼びかけていくのか。トライアル部門についての疑問とは？ 枠を取り払ってはどうかということか。



A) 千代田区に広めるには、区の広報はじめ、ネットワークのあるところを通して呼びかけていく。トライアルについては、一般部門との違いがよくわからない気がした。深い意味はない。

Q) 千代田区在勤、在学の人や企業への働きかけを試み、PRしていったらどうか。発展性のある活動なので続けてほしい。

17 多国籍居住時代・異文化理解によるこれからのまちづくり人材の育成 NPO 法人ちきゅう市民クラブ 【トライアル部門】

アジア諸国の留学生と日本の子どもたちとの交流を中心に活動している。今回、区立麹町小学校と幼稚園で留学生と子どもたちのプログラムを実施。多文化共生の居住時代で、隣にヒンズー教徒もイスラム教徒も住むようになる。毎日5回もお祈りしている人を見て、違和感を持ったり、価値基準や行動様式の違いから誤解が生じては困る。子どもの頃から交流の機会を増やし、文化や価値観の多様性を理解し、異なる生活様式を実感するのが大切だ。

11月には麹町幼稚園でモンゴルとの出会いの会を実施。女性のウーリーハンさんの歌や踊りとお話、男性のセーンジャーさんの馬頭琴演奏。二人ともコンサートホールで演奏している音楽家。モンゴルの子どもたちが8キロの道を歩いて学校へ行くことなど、互いの国のことを話し、最後にいっしょ

に歌ったり踊ったりした。

3月には麹町小学校でのワークショップ。サウジアラビアの白い服装は日本のワイシャツのルーツだという話も出て、両国の関連性と違いについて理解し合う。見学の母親たちへのアンケートに、幼い子どもたちがこのような体験ができて、地球環境や国際的な問題に取り組む人間を育てるためにも有意義だなどと感想が寄せられた。

Q) 今後の活動はどう考えているのか、広めるにはどうするのか？

A) 1回だけの活動では足りないので継続する。モンゴル、サウジアラビア以外の国の留学生ともやっていきたい。

Q) 麹町以外の地域にも広げてほしい。学校はもちろん、児童館などにも働きかけると違った側面から展開できるのではないかと。

A) 元々は博物館から始まった活動だが、校長会で紹介してもらった。小学校は行事も多いので、スケジュール的に大変な面もある。

Q) 来年の活動ではぜひ区内の大使館などにも働きかけるといいのではと思う。モンゴルの料理についてのプログラムも可能か？

A) ウーリーハンさんはモンゴル料理のお店をやっているののでできる。大使館にはよく行くので、まず子どもたちを案内したい。



審査委員の退任

山本委員、金城委員は、今年度をもちまして審査委員を退任されます。長い間ありがとうございました。これからも千代田まちづくりサポートの活動につきまして、ご指導ご支援くださいますようお願いいたします。

写真*退任される金城委員(左)、山本委員(右)と長田理事長(中央)



審査委員 講評

〔早田副会長〕

長時間にわたりご苦労さまでした。たいへん充実した発表ばかりで驚いています。私は他の地区でも、こうした活動や審査会をやるのですが、非常にレベルが高いと思いました。どの団体がサポート大賞をとってもおかしくないような印象で、最後まで判断に迷うような状態でした。



私は「協働のまちづくり」というのを研究しておりますが、服部委員もおっしゃったように、コラボレーションが多くて、それがこのサポート活動の特色で、相乗効果が表れています。相乗効果というのはうまく出ていたと思いますが、実は活動をいっしょにやると、足を引張り合ったり、転倒したり、相手のペースに引きずられて、デメリットも発生しかねない、難しいプロジェクトだと思います。

それを、よくぞ乗り越えているなという実感を持ちました。そういうところのノウハウを、事務局にもフィードバックしていただいて、事務局の方でもフォローし、対応していただくと、今後さらにますます、すばらしい活動になるのではないかと思います。

よろしく願いいたします。今日は、ほんとうにありがとうございました。

〔山本委員〕

本日は、お天気もだいぶ春らしくなり、みなさま、外で遊びたかったのではないかな、と思いますが、長時間お付き合いくださいましてありがとうございました。



発表については、前回、前々回に比べますと、どんどん内容が充実しているのと、非常にバラエティに富んでいて、どこを切り口にしても千代田が見えてくる、という感じでした。

お金のこととか、お辛いこともあったことと思いますが、それを乗り越えて、1年目やトライアルの団体の方もがんばられました。今年は不思議なことに、2年目の団体は「神保町応援隊」しかおりませんでした。1年目の方も、3年目に負けられないような、すごい発表でした。

ちょっと気にかかったのは、アンケート「サポートがあったので、活動が楽しかった」という項目に、マルを付けたグループが少ないことです。やはり、活動というのは楽しいことが原点でないと長続きしません。

ですから、なるべくこの次は、この項目に多くの人たちが、「ああ、楽しい！」とマルを付けていただきたいと思います。きょうは、どうもありがとうございました。

〔金城委員〕

1年間、みなさんお疲れ様でした。

中間発表会のときに、色々な活動の現場に行かせていただいて、今日もまた、その後の活動の検討の状況を色々教えていただき、とてもよかったと思いました。



学生さんのグループで、今年で卒業される方がたくさんおりますが、これも一つの御縁ですので、是非、今後もまた千代田に関わって下さったり、まちづくり活動に、あるいは千代田にみんなで飯を食いに帰ってきて下さったり、とにかくまた、この地域との御縁を何か残して、つなげていただければと思っています。

地元の街にとって、「学生」というのは、ある「異物」のようなところがどうしてもあると思うのですが、それを、このように一緒に取り込んで、活動してくれる。そんな、懐の深い千代田のまちですので、これからも、どんどんまちに突撃してもいいんだよと、是非、後輩の人たちにも伝えてほしい。そんなことを、今日は思いました。

本当にありがとうございました。

〔田熊委員〕

お疲れ様でした。今日はほんとうに楽しかったです。

審査会ときには疑問に思ったグループも成長して、よい活動をしてくれて、審査で落とさないでよかったとつくづく思いました。



私の審査の基本としては、千代田まちづくりサポートです

審査委員 講評

から、「千代田らしさ」ということをいちばん大切にしました。それがどうかを審査の基準にしたわけです。みなさん、かなり「千代田らしさ」を出している、出しつつあるなと感じました。

しかしながら、千代田というのは、入り込むと、かなり強烈なまちなので、飲み込まれないように。飲み込まれてしまうと、逆に、自分らしさが失われてしまう。

ぜひとも、助成グループのみなさんは、自分らしさも出してください。自分らしさを出しながら、その上で、千代田らしさを創ってやろうと、そういう気概を持ってやっていって欲しいと思います。

私は、神田のまちづくり運動もやっております。「商店街サミット」という商店街の神田駅周辺の6商店会が集まって会議をします。

いろいろな団体が連動して、いっしょにまちづくりを考えていく組織ができつつあります。何を言いたいかと言いますと、小さな活動でも、地道にやっていたら、何かにつながる、ということです。

私も地元のコーディネーターとして、お金以外でサポートしていきたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。

〔服部委員〕

みなさま、素敵な発表を聞かせてくださって、ありがとうございました。中身の充実した活動が、去年よりもさらに多かったと感じております。私は、企業の社会貢献活動推進について取り組んでおり、みなさまの情報を、もっと企業の方に伝えていきたいと思いました。企業というものには2つの面があって、たとえば、サポーターの1つになるという面があります。つまり、場所や物品を提供したりすることです。もう一方では、社員の中からみなさんの活動に賛同したり、そこから新しい活動を広げていくネットワークの核にもなることです。その両面で、もっとこのサポート活動の情報を伝えていきたいと思います。

それには、どこかのグループのご意見にもありましたが、実は、今年度、各グループが様々なイベントをやっています



たが、「知らなかった」、ということが結構ありました。それはきっと活動の内容が急に決まるとか、詳細がぎりぎりまで決まらないとか、いろいろな事情があったのかとは思っています。そうした情報を、「まちみらい千代田」の方で、もっと集約して広報していただきたい。これは、ホームページではなく、メーリングリストとか、いろんな方法がありますから、どんどん発信して、受けた人からまた外へ発信できるようにしていただきたい。せっかく、こんないい情報がたくさんつまった活動ですので、そんな形で広がっていけばと思いました。

〔渡辺委員〕

長時間、どうもありがとうございました。

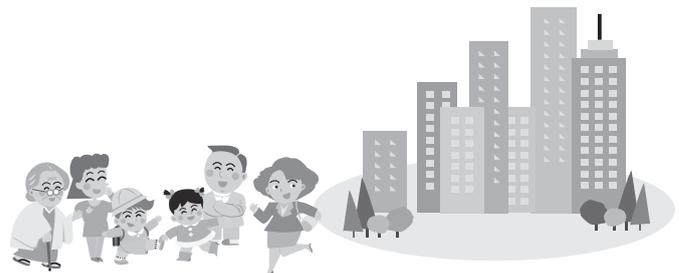
実は私は、このサポート事業の審査委員は今年が初めてなのですが、審査員というのは、仕事からいろいろやらせていただいております。

ですが、こんなに楽しい審査委員はないので、3回出席させていただきましたが、とても楽しんでおります。とは言いましても、最初の時はちょっと緊張いたしました。

振り返りますと、最初の公開審査会のときと、中間成果発表会と、そしてきょうの最終成果発表会とでは、比べますとだいぶ内容が違っていたりしますが、経過がよくて、それで結果よければ、すべてよし。最初の話よりも、ずいぶん活動が広がって、内容も豊富になり、とてもよかったと思っております。

それに、一つの団体が他の団体と交流して、イベントをいっしょにやったり、何でもあり、といったところで、それがこの「まちづくりサポート」のおもしろい所であり、醍醐味なのかなと思いました。

ぜひ、みなさん卒業された方も、これからも、いろんな所で交流を深めて、さらに、千代田のまちづくりに貢献していただきたいと思います。



総評



鈴木 会長

(鈴木会長)

お疲れ様でした。特に、3年間助成を受けられた6チームの方々、長い間ありがとうございました。各グループともレベルも高く、千代田のまちづくりを引っ張っていくのではないかと思います。ぜひ、活動を継続していただきたい。それと、今まで培われた「まちづくりサポート」の中でのネットワークをうまく活かしながら、今後も活動をしていただければと思います。

またサポーターズクラブもありますし、「まちみらい千代田」の方でも、ぜひ卒業生グループのサポートをしていただきたいと思います。

昨年、実は懸念事項がありました。一昨年度の1年目のグループの応募数が少なかったのです。「まちづくりサポート」の参加グループ数が減って、危機的状況になるのではないかと心配したのです。

ところがうれしいことに1年目のグループが9チーム、トライアルが2チーム応募があり、しかもそれぞれが非常に高い活動をされた。きょう、それを確認し、安堵しているのが、私の正直な気持ちです。先ほど、何人かの委員の方から「最

初はどうなるかと思った」というお話がありました。少々まじめな話をいたします。「まちづくりサポート」は、何かをやりたいグループの人たちが活動のレベルアップを図りたい、というところにサポートをしていくものだ、と私は理解しております。

ですから、非常に未確定な部分も多い活動を支援していくわけです。途中で内容が変わるということは全然問題はないと思います。これからも、助成を受けて最初の計画通りにやらなければいけない、とは考えずに、どんどん新しいことにチャレンジしていただきたい。

ただ、1点だけ、苦言をあえて申し上げますが、やはり助成金は、まちづくりに対して理解のある企業からの浄財を資金にしておりますので、金銭の収支の処理については、透明性を持って行われなければいけない。それで領収証の提出ということがあり、ご負担になったかもしれません。しかし、やはりこの「まちづくりサポート」を長期的に継続していくためには必要なことです。次年度以降の応募に際しては、その点についてご理解いただきたいと思います。今年は、1年目で試行という意味あいもあり、経験されたグループは来年度以降その点を頭に置いて活動していただけたと思います。

最後に申し上げますが、このような「まちづくりサポート」自体が、実は千代田のまちづくりの大きな資本だと私は思っております。千代田はこれから、まちを大改造するなどできないわけです。でも、まちを良くしていく、おもしろくしていくのは、やはり人だったり、人と人のつながりだったりします。そういう意味では、この人とのつながりを創っている「まちづくりサポート」は、千代田の社会資本の一部なのです。ここで創られた人と人とのつながりを上手く活かしながら、今後の活動をしていただきたいと思います。

サポート大賞の発表

毎年恒例により、審査委員と来場者によるサポート大賞の選定を行いました。「サポート大賞」は、各審査員1票、各グループ1票を最も優秀な発表グループへ投票し、得票の多いグループへ贈る賞です。今回は、「神田フェーダー・ニュートラル」がサポート大賞に選ばれました。ストリートライブを中心に神田駅周辺の活性化を図る活動を行い、「大人の街・神田」地域の魅力再発見活動「ロジヨコカルチャー発信事業」を始動させ、今後の活躍が期待されるグループです。

次に得票の多かったグループは、「食育。街行く研究会」および「カンドユメラボ」でした。



交流会

成果発表会終了後、恒例の千代田まちづくりサポーターズクラブ（略称 CSC）主催の「交流会」が開催されました。50 名以上の参加者の方々が一同に会し、発表会では語りきれなかった裏話、苦労話を交えて、審査委員や各グループと語らい、楽しいひとときとなりました。



事務局よりお知らせ

千代田まちづくりサポートは、平成 20 年度で第 10 回目を迎えます。これを踏まえ事務局では 10 周年記念事業を開催する予定です。開催は 11 月頃を予定しており、具体的な内容については現在検討中です。開催を計画するにあたりましては、これまでの審査委員の先生方や助成活動グループの皆様へのご協力をいただく場合もあるかと思えます。その際はよろしくお願いたします。

（財）まちみらい千代田 賛助会員一覧（法人：58 社 個人：56 名 計 114） 2008 年 4 月末現在

※本事業は下記の法人会員と個人会員の支援で運営されています。＜賛助会員募集中＞

【法人会員】	【不動産関係】		【個人会員】（敬称略）
【保険関係】 日本興亜損害保険(株)	エヌティティ都市開発(株) 協永(株) (株)久保工 住友不動産(株) 三井不動産(株) 三菱地所(株) 安田不動産(株)	(株)都市環境計画研究所 パシフィックコンサルタンツ(株) (株)ポリテック・エイディディ マト設計・コンサル(株) (株)ラウム計画設計研究所	青木 孝次 安孫子 政夫 阿部 武志 安藤 岩三郎 池 俊郎 伊澤 優 伊東 敏雄 犬伏 真 今川 守 浦田 泉 扇谷 和栄 岡田 貫伍 角地 登志子 加藤 武夫 北澤 悦子 木村 進一 小林 勝彦 小山 政士 清水 玲子 須藤 昭雄 瀬川 昌輝 立山 光昭 田村 崇彰
【金融関係】 興産信用金庫 (株)東京都民銀行 神田支店 (株)東日本銀行 飯田橋支店 みずほ信託銀行(株) 大和証券(株) 本店営業部	【緑花・環境関係】 日産緑化(株)	【コンサルタント】 (株)アーバントラフィック エンジニアリング (株)アフタヌーンソサエティ NPO 法人都市住宅とまちづくり研究会 NPO 法人マンション管理支援協議会 (株)都市デザインシステム (株)三菱総合研究所	塚越 茂 戸田 豊重 二木 憲一 野間 善治 早川 平典 藤本 琢巳 堀部 剛正 松島 弓子 松波 道廣 三浦 博子 三原 久徳 宮寺 孝臣 三輪 瑛子 森田 克弥 山崎 泰廣 渡邊 和
【建築・土木関係】 (株)大林組 東京本社 大林道路(株) 関東支店 鹿島建設(株) 東京建築支店 五洋建設(株) 清水建設(株) 大成建設(株) (株)竹中工務店 中央建設(株) 鉄建建設(株) 戸田建設(株) 東京支店 (株)ナカノフード建設 国内営業支援部 前田建設工業(株) (株)増岡組 東京支店	【広告代理業】 (有)フィレール	【電機・通信関係】 ウェブリオ(株)	【その他】 秋葉原商店街振興組合 秋葉原中央通商店街振興組合 (株)イサミヤ 神田古書店連盟 (株)デザインファクトリー 東洋美術印刷(株) フィールファイン(株) 富士ゼロックス(株) プラットフォームサービス(株) ヨシモトポール(株)
	【建設設計】 (株)アール・アイ・エー (株)アイテック計画 (株)ADプロジェクト (株)エルイー創造研究所 (株)関東設計 (株)共立エステート (株)楠山設計 (社)東京都建築士事務所協会 千代田支部		他 17 名